

第2学年 算数科学習指導案

指導者

(ぐんぐんコース)
(がっちりコース)
(じっくりコース)

1 単元 ふえたり へったり

2 目標

- 増減する数量に着目して、「まとめて考える」という考え方のよさに気づき、これを活用しようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- 増減する数量に着目し、まとめて考えることができる。
(数学的な考え方)
- 増減する数量を、数図ブロックを操作して表したり、図をかいて表したりすることができる。
(数量や図形についての技能)
- 増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。
(数量や図形についての知識・理解)

3 指導観

単元・教材	○ 学習指導要領 第2学年2内容A—(2)—ウ「簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方考えること。」		
	○ 単元の系統 ・ 2年 かくれた数はいくつ ・ 2年 計算のじゅんじょ ・ 3年 何倍でしょう		
児童の実態	ぐんぐんコース (20名)	がっちりコース (21名)	じっくりコース (9名)
	○ 学習意欲、学習経験 ・ 算数科に対する意欲が高く、分かるまで粘り強く考えられる児童が多い。 ・ 既習事項から、見通しをもって主体的に学習に取む児童が多い。	○ 学習意欲、学習経験 ・ 算数科に対する意欲は高いが、解決に時間を要する児童が見られる。 ・ 自分の考えを書いたり、説明したりすることができる児童は少ない。	○ 学習意欲、学習経験 ・ 算数科に対する意欲は高いが、題意の把握が自分ではできない児童が多い。 ・ 自分の考えを書いたり、説明したりすることができる児童はほとんどいない。
	○ レディネス (正答率) ・ 3つの数の計算…83%	○ レディネス (正答率) ・ 3つの数の計算…76%	○ レディネス (正答率) ・ 3つの数の計算…38%
指導の手立て	○ 単元における手立て ・ 児童の学習スタイルに応じたコース編制 ・ ペア、全体の学び合いの場の設定 ・ 習熟の時間の確保		○ 既習事項の掲示 ・ 一単位時間終末の振り返りの場の設定 ・ AAI結果による個別指導と言葉かけ
	◇ 本時における「わかる」手立て ・ 児童の発表から言葉や式を使った説明を整理し、全員で復唱させることで、一人一人が式から説明ができるようにする。 ・ さるの数を変えた問題を提示し、順に考えた時と、差し引いて考えた時の式を比べ、どちらが間違えずに簡単にできるかを考えさせることで、まとめて考えるよさを実感させるようにする。	◇ 本時における「わかる」手立て ・ 立式できない児童には、かいた図を基に増えた数に着目させ、2ひき増えたことなどを助言することで、自分なりの考えをもたせる。 ・ 児童の発表を基に、言葉や式を使った説明を完成させ、全員で復唱させることで、「差し引いて考える」解き方を定着させる。	◇ 本時における「わかる」手立て ・ 問題文の増減の数値に「ふえた」「へった」の言葉を書くことで、解決の見通しをもたせる。 ・ 教師の発問に児童が答える形で説明の言葉を板書していき、全員で一緒に読むことで、差し引いて考える考え方を理解させる。

<p>◎ 本時における「できる」手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く解けた児童は、減増の場面で答えが減る問題も含むボール問題②に進ませ、差し引いて考える考え方の定着を図る。 	<p>◎ 本時における「できる」手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つまずいている児童には、「つかった」「もらった」という言葉に注目させ、差し引いて考えて、増えたことに気付かせる。 	<p>◎ 本時における「できる」手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つまずいている児童には、矢印の図をもとに「つかった」=へった、「もらった」=ふえた、ということをおさえ全員ができるように個別支援を行う。
--	--	--


4 指導計画・評価計画（全3時間）

時間	主な学習内容	評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
1	○ 増増の場面の問題を、順に考えたり、まとめて考えたりして解決すること	○ 増増の場面の問題を進んで考えようとする。 (発表)	☆ 増増の場面の問題を、順に考えたり、まとめて考えたりすることができる。 (発表、ノート)		
1	○ 増増の場面の問題を、増加する数量に着目して、まとめて考え解決すること		☆ 変量に着目しまとめて考える考え方で解くことができる。 (発表、ノート)	○ 増減する数量を、数図ブロックを操作して表したり、図をかいて表したりすることができる。 (ノート)	
1 (本時)	○ 増減（減増）の場面の問題を変量に着目し、差し引きいくら増えた（減った）ことになるかを考えて解くこと		☆ 増減・減増の場面の問題を差し引きいくら増えたことになるかを考えて解くことができる。 (発表、ノート)		○ 増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。 (ノート)

5 本時の目標

- 増減（減増）の場面を、変量に着目して差し引いていくら増えたことになるかを考えて解くことができる。
(数学的な考え方)

6 学習指導過程（ぐんぐんコース）



段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点（☆評価） ◇「わかる」手立て ◎「できる」手立て
わかる (28分)	<p>1 本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 広場に さるが 12ひき いました。 そこへ 6ひき 来ました。 そのあと 4ひき 帰りました。 さるは 何ひきに なりましたか。 </div> <p>2 解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の問題とのちがい ○ 答えの予想 <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> はじめの数より、ふえたかへったかを考えればとけるのだろうか。 </div> <p>4 学習問題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 解決の方法の確認 <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決（図、式・答え、説明） しき $6 - 4 = 2$（ふえた） $12 + 2 - 14$ 14ひき ○ ペアで話し合い ○ 全体での話し合い <p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> はじめの数からいくつふえたかを考えてとけばよい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文に「わたこさんのかぎ」をつけることで、題意を把握させる。 ○ 前時の問題との違いを問うことで、「増えて減る」ことに気付かせ、解決の見通しをもたせる。 ○ はじめの数から増えたか減ったか考えさせることで、本時のめあてを設定する。 ○ 増えたか減ったかをとらえさせるために矢印の図を提示し、式や答えの説明を書かせる。 ○ 児童のノートを確認しながら、つまづいている児童には、増減を表す言葉を使ったり変量に着目したりしながら、説明を書くよう助言する。 ○ 答えが何ひきになったのかを確認させ、図を指し示しながら、ペアで説明し合わせ、図と式の関連づけを図る。 ◇ 児童の発表から言葉や式を使った説明を整理し、全員で復唱させることで、一人一人が式から説明ができるようにする。（音声化） ◇ さるの数を変えた問題を提示し、順に考えた時と、差し引いて考えた時の式を比べ、どちらが間違えずに簡単にできるかを考えさせることで、まとめて考えるよさを実感させるようにする。（学び合い） ○ めあてにもどり、どのように考えたなら解けるかを問うことで、本時のまとめを引き出すようにする。
できる (17分)	<p>6 本時のゴール問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴール問題① <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 色紙を50まいもっていました。 5まいつかいました。あとでお姉さんから8まいもらいました。色紙は、いま何まいありますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴール問題② <p>7 本時を振り返り、学習内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの記述 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かったこと ・ できるようになったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴール問題①を解かせ、一人一人に丸付けをしていくことで、児童の理解把握と指導に生かすようにする。（個別支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ☆ 変量に着目し、差し引いていくつ増えたかを考えて解くことができている。 (考え方：発表・ノート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 早く解けた児童は、減増の場面では答えが減る問題も含むゴール問題②に進ませ、差し引いて考える考え方の定着を図る。（反復） ○ 分かったことや、できるようになったことを記述させ、発表させることで、学習の達成感をもたせる。

これから自分で考えてもらいますが、何を使って考えるとよいですか。

どんな言葉を使うと説明できますか。

今日の問題は、どのように考えて解きましたか。


も 広場にさるが12ひきいました。
そこへ6ひきさしました。
そのあと4ひきかえりした。
さるは何ひきになりましたか。

いえる → へる

はじめの数よりさえている

め はじめの数よりさえたかへったか考えればわかるだろうか。




はじめ 12ひき
しき $6-4=2$
 $12+2=14$

14ひき

発表

発表

ま はじめの数からいくつかえたかを考えてとけばよい。
色紙を50まいもっていました。
5まい(つかいました)あとしておねえさんから8まいもらいました。つかって色紙はいま何まいありますか



はじめ 50まい

しき $8-5=3$
 $50+3=53$

53まい

発表


発表

今日の問題は、昨日とどのような違いがありますか。それほどの言葉で分かれますか。

5 本時の目標

- 増減（減増）の場面を、変量に着目して差し引いていくら増えたことになるかを考えて解くことができる。
(数学的な考え方)

6 学習指導過程（がっちりコース）

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点（☆評価） ◇「わかる」手立て ◎「できる」手立て
わかる (30分)	<p>1 本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>広場に さるが 12ひき いました。 そこへ 6ひき 来ました。 そのあと 4ひき 帰りました。 さるは 何ひきに なりましたか。</p> </div> <p>2 解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の問題とのちがいがい ○ 答えの予想 <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>はじめの数よりふえたかへったかを考えればとけるのだろうか。</p> </div> <p>4 学習問題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 解決の方法の確認（矢印の図） <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">はじめ 12ひき</div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決（図、式・答え、説明） <p>しき $6 - 4 - 2$（ふえた） $12 + 2 = 14$ 14ひき</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体での話し合い <p>6ひきふえて4ひきへったから、 6 - 4で2、2ひきふえた。 はじめ12ひきいて、2ひきふえたから $12 + 2 = 14$</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>はじめの数からいくつふえたかを考えてとけばよい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文を一文ずつ場面の絵と対応させながら提示することで、題意を把握できるようにする。 ○ 「わたこさんのかぎ」を付けさせることで、立式のために必要な数字や求めたいことを整理させる。 ○ 前時の問題との違いを問うことで、本時は増えたり減ったりする問題であることに気付かせる。 ○ 解決の見通しから本時のめあてを考えさせ、声に出して言わせることで問題解決への意欲をもたせる。 ○ 増えたか減ったかをとらえやすくするために、矢印の図を使って考えていくことを確認する。 <p>◇ 立式できない児童には、かいた図を基に増えた数に着目させ、2ひき増えたことなどを助言することで、自分なりの考えをもたせる。（個別支援）</p> <p>◇ 児童の発表を基に、言葉や式を使った説明を完成させ、全員で復唱させることで、「差し引いて考える」解き方を定着させる。（音声化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めあてや矢印の図に着目させ、はじめの数から2ひき増えたことを確認して、本時の解き方をまとめにしていくようにする。
できる (15分)	<p>6 本時のゴール問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴール問題① <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>色紙を50まいもっていました。 5まいつかいました。あとでお姉さんから8まいもらいました。色紙は、いま何まいありますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴール問題② <p>7 本時を振り返り、学習内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの記述 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かったこと ・ できるようになったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴール問題①を解かせ、$8 - 5$で3増えたことができていないか確認する。 ◎ つまずいている児童には、「つかった」「もらった」という言葉に注目させ、差し引いて考えて、増えたことに気付かせる。（個別支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆ 変量に着目し、差し引いていくつ増えたかを考えて解くことができています。 (考え方：発表・ノート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ できた児童にはゴール問題②に取り組ませ、自分で丸付けをさせることで、差し引いて考える考え方の定着を図る。 ○ 振り返りがよく書けている児童に発表させ、称賛することで達成感をもたせる。

これから自分で考えてもらいますが、何を使って考えるとよいですか。

今日の問題は、どんな解き方をしましたか。

も 広場にさるが120さいました。
 そこへ6ひき(さました)。
 そのあと4ひき(かえりました)。
 さるは何ひきになりましたか。

め はじめの数よりふえたかへったか考えればとけるのだろうか。

み ふえる→へる
 はじめの数よりふえている

こ 色紙を50まいもっていました。
 5まい(つかいました)。
 あとおねえさんから8まい(もらいました)。
 2からっていない色紙はいま何まいありますか。

か はじめの数よりふえたかへったか考えればとけるのだろうか。

き 色紙を50まいもっていました。
 5まい(つかいました)。
 あとおねえさんから8まい(もらいました)。
 2からっていない色紙はいま何まいありますか。

け 今日の問題は、どんな解き方をしましたか。

こ 今日の問題は、昨日とどこが違うでしょうか。

さ 今日の問題は、昨日とどこが違うでしょうか。

せ 今日の問題は、どんな解き方をしましたか。

今日の問題は、昨日とどこが違うでしょうか。

はじめの数よりふえていますか、へっていますか。

6びき来て、4びき帰ったので、さ
るの数はどうなっていますか。

昨日は、何をかいて考えましたか。

今日の問題は、どんな解き方をし
ましたか。

も 広場にさるが12びきいました。
そこへ6びき来ました。
そのあと4びきかえりました。
さるは何びきになりましたか。

120き

60き
3びき

40き
4びき

み へたり、へたりしている

め はじめの数よりへたりか、へたりか
考えればどけるだろうか。

はじめ
12ひき

6 - 4 = 2 ← へたり
12 + 2 = 14
14ひき

(しき) 6ひきへたり 4ひきへたり から
6 - 4をして 2ひきへたりしました。
はじめ12ひきいて 2ひきへたりから
12 + 2をして 14ひきになりました。

考

(しき) 8 - 5 = 3
50 + 3 = 53 53まい

(せつめい) 5まいへって 8まいへたり
8 - 5をして 3びきへたりしました。
はじめ50まいもって 3まいへたりから
50 + 3をして 53まいになりました。

ま

はじめの数からいくつ
へたりか、考えればよい。

色紙を50まいもっていました。
5まいへたりしました。
あとでおねえさんから8まい
もらいました。つからっていない
色紙はいま何まいありますか。

はじめ
50まい

5まいへたり
8まいへたり

(しき) 8 - 5 = 3
50 + 3 = 53 53まい

(せつめい) 5まいへって 8まいへたり
8 - 5をして 3びきへたりしました。
はじめ50まいもって 3まいへたりから
50 + 3をして 53まいになりました。

今日の問題は、昨日と比べ
てどこが違うでしょうか。